

2019 年度  
第 153 回日商簿記検定目標  
**直前ヤマ当て模試**  
**解答解説**

3 級

(制限時間 2 時間)

**資格★合格クリアール**

3 級 ①

商業簿記

第1問 (仕訳1組につき4点×5箇所=20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	旅費交通費 消耗品費 雑費	23,000 9,000 3,000	仮払金	35,000
2	現金 クレジット売掛金	139,320 54,000	売上 仮受消費税	179,000 14,320
3	貸倒引当金 貸倒損失	140,000 360,000	売掛金	500,000
4	備品減価償却累計額 減価償却費 未収入金 固定資産売却損	190,000 25,000 160,000 105,000	備品	480,000
5	差入保証金 支払家賃 支払手数料	1,440,000 360,000 240,000	普通預金	2,040,000

※ 4の別解

借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却費	25,000	備品減価償却累計額	25,000
備品減価償却累計額	215,000	備品	480,000
未収入金	160,000		
固定資産売却損	105,000		

3 級 ②

商業簿記

第2問 (  1箇所につき2点×5箇所=10点)

1. 商品有高帳  
(移動平均法) 商品 A

月日	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
11	1	前月繰越	200	400	80,000				200	400	80,000
	6	仕 入	200	420	84,000				400	410	164,000
	10	売 上				160	410	65,600	240	410	98,400
	13	仕 入	240	430	103,200				480	420	201,600
	15	仕入戻し				80	430	34,400	400	418	167,200
	20	売 上				220	418	91,960	180	418	75,240
	23	売上戻り	20	418	8,360				200	418	83,600
	24	仕 入	200	424	84,800				400	421	168,400
	28	売 上				140	421	58,940	260	421	109,460
	30	次月繰越				260	421	109,460			
			860		360,360	860		360,360			

2. (1) 当月(11月)の売上総利益

(2) 次月繰越高

3 級 ③

商業簿記

第3問 ( ) 1つにつき3点×10箇所=30点

合計残高試算表

X9年5月31日

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
残 高	合 計		合 計	残 高
1,275,000	3,805,000	現 金	2,530,000	
481,500	6,480,000	当 座 預 金	5,998,500	
502,500	1,002,500	定 期 預 金	500,000	
420,000	1,520,000	受 取 手 形	1,100,000	
749,000	3,631,000	売 掛 金	2,882,000	
40,000	720,000	前 払 金	680,000	
750,000	750,000	繰 越 商 品		
1,140,000	1,140,000	備 品		
	900,000	支 払 手 形	1,340,000	440,000
	2,670,500	買 掛 金	3,095,000	424,500
	900,000	借 入 金	1,800,000	900,000
	80,000	所 得 税 預 り 金	105,000	25,000
	100,000	社 会 保 険 料 預 り 金	122,000	22,000
		資 本 金	3,000,000	3,000,000
		繰 越 利 益 剰 余 金	300,000	300,000
	192,000	売 上	9,111,000	8,919,000
		受 取 利 息	68,500	68,500
5,611,500	5,745,000	仕 入	133,500	
2,060,000	2,060,000	給 料		
562,500	562,500	支 払 家 賃		
101,000	101,000	水 道 光 熱 費		
300,000	300,000	( 手 形 貸 付 金 )		
190,000	190,000	( 電 子 記 録 債 権 )		
		( 電 子 記 録 債 務 )	120,000	120,000
36,000	36,000	( 支 払 利 息 )		
14,219,000	32,885,500		32,885,500	14,219,000

売掛金明細表

	5月24日	5月31日
京都商店	¥ 300,000	(¥ 235,000)
大阪商店	( 320,000)	( 113,000)
神戸商店	450,000	( 401,000)
	(¥1,070,000)	(¥ 749,000)

買掛金明細表

	5月24日	5月31日
千葉商店	¥ 200,000	(¥ 243,000)
茨城商店	( 270,000)	( 93,000)
埼玉商店	180,000	( 88,500)
	(¥ 650,000)	(¥ 424,500)

3 級 ④

商業簿記

第4問 (  1つにつき2点×5箇所=10点)

仕 訳 日 計 表

X9年11月1日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
468,000	現 金	88,000
	当 座 預 金	50,000
	売 掛 金	56,000
	建 物	500,000
50,000	支 払 手 形	
41,000	買 掛 金	106,000
	受 取 利 息	12,000
106,000	仕 入	
40,000	支 払 家 賃	
7,000	( 消 耗 品 費 )	
100,000	( 固 定 資 産 売 却 損 )	
812,000		812,000

総 勘 定 元 帳

現 金

11/1 前月繰越 90,000	(11/1 (仕訳日計表 ) ) (88,000)
(11/1 (仕訳日計表 ) ) (468,000)	

売 掛 金

11/1 前月繰越 80,000	(11/1 (仕訳日計表 ) ) (56,000)

建 物

11/1 前月繰越 900,000	(11/1 (仕訳日計表 ) ) (500,000)

支 払 手 形

(11/1 (仕訳日計表 ) ) (50,000)	11/1 前月繰越 70,000

仕 入 先 元 帳

岡山商事株式会社

(11/1 (出金伝票 ) ) (14,000)	11/1 前月繰越 35,000
	(11/1 (振替伝票 ) ) (46,000)

広島物産株式会社

(11/1 (出金伝票 ) ) (27,000)	11/1 前月繰越 55,000
	(11/1 (振替伝票 ) ) (60,000)

3 級 ⑤

商業簿記

第5問 (  1つにつき3点×10箇所=30点)

貸借対照表

X9年3月31日

現金	( 257,700 )	支払手形	( 864,300 )
当座預金	( 1,999,900 )	買掛金	( 677,700 )
受取手形	( 1,066,800 )	借入金	( 3,600,000 )
電子記録債権	( 980,000 )	未払消費税	( 1,180,000 )
売掛金	( 713,200 )	未払法人税等	( 240,000 )
貸倒引当金	( 55,200 ) ( 2,704,800 )	前受収益	( 270,000 )
商品	( 810,000 )	未払費用	( 36,000 )
貯蔵品	( 80,400 )	資本金	( 4,000,000 )
前払費用	( 193,500 )	利益準備金	( 120,000 )
建物	( 7,500,000 )	繰越利益剰余金	( 1,433,300 )
備品	( 2,700,000 )		
減価償却累計額	( 3,825,000 ) ( 6,375,000 )		
	( 12,421,300 )		( 12,421,300 )

損益計算書

自X8年4月1日 至X9年3月31日

売上原価	( 8,538,000 )	売上高	( 14,281,000 )
給料	( 3,047,000 )	受取手数料	( 144,000 )
通信費	( 565,600 )	受取家賃	( 360,000 )
支払保険料	( 193,500 )	(雑益)	( 6,600 )
租税公課	( 126,000 )		
消耗品費	( 45,000 )		
支払利息	( 144,000 )		
貸倒引当金繰入	( 11,700 )		
減価償却費	( 675,000 )		
法人税等	( 600,000 )		
当期純利益	( 845,800 )		
	( 14,791,600 )		( 14,791,600 )

# 商業簿記 直前ヤマ当て模試 解説

## 第1問 仕訳問題 (単位:円) 目標時間: 15分

指定された勘定科目を正確に使用する点に注意すること、1つ1つの基本の立ち返ることを意識していただきたい。

### 1. ICカード

(借) 旅 費 交 通 費	23,000 (*1)	(貸) 仮 払 金	35,000
消 耗 品 費	9,000 (*2)		
雑 費	3,000		

- \*1 電車移動による運賃
- \*2 消耗品の購入代金
- \*3 茶菓子の購入代金

### 2. クレジット売掛金および消費税

(借) 現 金	139,320 (*1)	(貸) 売 上	179,000 (*2)
ク レ ジ ッ ト 売 掛 金	54,000	仮 受 消 費 税	14,320

- \*1 合計193,320-クレジットカード54,000=139,320
- \*2 47,600+50,400+81,000=179,000

### 3. 貸倒れの発生

(借) 貸 倒 引 当 金	140,000 (*1)	(貸) 売 掛 金	500,000
貸 倒 損 失	360,000 (*2)		

- \*1 前期の売上げにより生じた売掛金の貸倒れ額
- \*2 当期の売上げにより生じた売掛金の貸倒れ額

### 4. 固定資産の売却

(1) 当期首から売却時点までの減価償却

(借) 減 価 償 却 費	25,000 (*1)	(貸) 備 品 減 価 償 却 累 計 額	25,000
---------------	-------------	-----------------------	--------

- \*1  $480,000 \div 8 \text{年} \times 5 \text{ヶ月} / 12 \text{ヶ月} = 25,000$

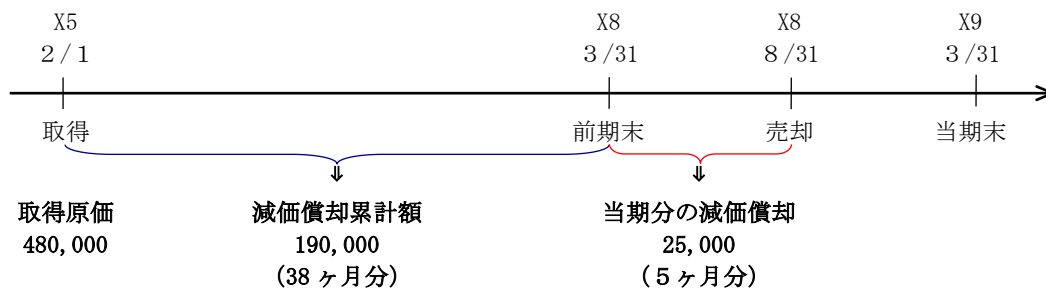
(2) 売却自体の会計処理

(借) 備 品 減 価 償 却 累 計 額	215,000 (*2)	(貸) 備 品	480,000
未 収 入 金	160,000		
固 定 資 産 売 却 損	105,000 (*3)		

- \*2 前期末の減価償却累計額:  $480,000 \div 8 \text{年} \times 38 \text{ヶ月} / 12 \text{ヶ月} = 190,000$   
 $190,000 + 25,000 = 215,000$
- \*3 売却時の帳簿価額:  $480,000 - 190,000 - 25,000 = 265,000$   
代金160,000-265,000=△105,000 (売却損)

(3) 上記(1)と(2)の合算・相殺 (上記(1)と(2)の仕訳を合算・相殺せずにそのまま並べて解答してもよい)

(借) 備 品 減 価 償 却 累 計 額	190,000	(貸) 備 品	480,000
減 価 償 却 費	25,000		
未 収 入 金	160,000		
固 定 資 産 売 却 損	105,000		



5. 敷金、家賃の支払いなど

(借) 差入保証金	1,440,000 (*1)	(貸) 普通預金	2,040,000
支払家賃	360,000 (*2)		
支払手数料	240,000 (*3)		

\*1 敷金。物件を明け渡す際に返還を受けることのできる資産として捉える。

\*2 初月賃料

\*3 仲介手数料



第2問 商品有高帳（単位：円） 目標時間：15分

商品有高帳とは、商品の種類ごとに、その受入れ・払出し・残高を原価で記録するための補助簿（補助元帳）をいう。売上時の価格（売価）を記入対象としないように注意していただきたい。

1. 移動平均法による場合

商 品 有 高 帳

（移動平均法）

商 品 A

月日	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
11	1	前月繰越	200	400	80,000				200	400	80,000
	6	仕 入	200	420	84,000				400	410(*1)	164,000
	10	売 上				160	410	65,600	240	410	98,400
	13	仕 入	240	430	103,200				480	420(*2)	201,600
	15	仕入戻し				80	430	34,400	400	418(*3)	167,200
	20	売 上				220	418	91,960	180	418	75,240
	23	売上戻り	20	418	8,360				200	418	83,600
	24	仕 入	200	424	84,800				400	421(*4)	168,400
	28	売 上				140	421	58,940	260	421	109,460
	<b>30</b>	<b>次月繰越</b>				<b>260</b>	<b>421</b>	<b>109,460</b>			
			860		360,360	860		360,360			

\*1  $(80,000 + 84,000) \div (200\text{個} + 200\text{個}) = @410$

\*2  $(98,400 + 103,200) \div (240\text{個} + 240\text{個}) = @420$

\*3 13日における仕入の一部取消しと考え、仕入戻し後の数量に基づいて平均単価を修正する。

$(201,600 - 34,400) \div (480\text{個} - 80\text{個}) = @418$

\*4  $(83,600 + 84,800) \div (200\text{個} + 200\text{個}) = @421$

（参考）返品が行われた場合における商品有高帳の記入方法

(1) 仕入戻し（仕入返品）

仕入戻し（仕入返品）が行われた場合、商品有高帳の記入方法には次の2つがある。なお、いずれの方法においても、移動平均法の場合には平均単価の修正を行う点に留意が必要である。

- ① 払出欄に記入する方法
- ② 受入欄に赤字で記入する方法

(2) 売上戻り（売上返品）

売上戻り（売上返品）が行われた場合、商品有高帳の記入方法には次の2つがある。

- ① 受入欄に記入する方法
- ② 払出欄に赤字で記入する方法

2. 先入先出法による場合

(1) 商品有高帳

商品有高帳

(先入先出法)

商品 A

月日	摘要	受入			払出			残高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
11	1	前月繰越	200	400	80,000				200	400	80,000
	6	仕入	200	420	84,000				200	400	80,000
								200		420	84,000
	10	売上				160	400	64,000	40	400	16,000
								200		420	84,000
	13	仕入	240	430	103,200				40	400	16,000
								200		420	84,000
								240	430	103,200	
	15	仕入戻し				80	430	34,400	40	400	16,000
								200		420	84,000
								160	430	68,800	
	20	売上				40	400	16,000			
							180	420	75,600	20	420
								160	430		68,800
	23	売上戻り	20	420	8,400				40	420	16,800
								160		430	68,800
	24	仕入	200	424	84,800				40	420	16,800
								160		430	68,800
								200	424	84,800	
	28	売上				40	420	16,800			
							100	430	43,000	60	430
								200	424		84,800
	30	次月繰越				60	430	25,800			
							200	424	84,800		
			860		360,400	860		360,400			

(2) 商品Aの次月繰越高

上記(1)の商品有高帳を作成することによって求めることができる。

ただし、先入先出法であるため、月末の残高260個は直近に仕入れた部分から構成される。その点を踏まえ、商品有高帳を作成しなくとも、次のように計算することもできる。

・ 200個 : 24日仕入分 → @424×200個 = 84,800

・ 60個 : 13日仕入分 → @430×60個 = 25,800

110,600

(3) 売上総利益

① 売上高

10日売上分：@690×160個＝	110,400
20日売上分：@700×220個＝	154,000
23日売上戻り：@700×△20個＝	△14,000
28日売上分：@705×140個＝	98,700
	<hr/>
	349,100

② 売上原価

上記(1)の商品有高帳(売上による払戻および売上戻りによる受入)を集計することによって計算することができる。

$$64,000 + (16,000 + 75,600) - 8,400 + (16,800 + 43,000) = 207,000$$

しかし、前月繰越高と当月純仕入高(移動平均法による商品有高帳によっても集計することができる)を合計し、上記(2)の次月繰越高を差し引くことによって計算することもできる。

$$\text{前月繰越}80,000 + \text{当月純仕入高}(84,000 + 103,200 - 34,400 + 84,800) - \text{次月繰越}110,600 = 207,000$$

③ 売上総利益

$$\text{売上高}349,100 - \text{売上原価}207,000 = 142,100$$

第3問 合計残高試算表および売掛金・買掛金明細表（単位：円） 目標時間：40分

売掛金明細表・買掛金明細表の作成を効率的に行うため、X9年5月25日から31日までの取引に基づく仕訳などを下書きする際、売掛金や買掛金の増減についてはどの相手先に対するものであるかを併せて下書きすると良い（下記2.に示した仕訳参照）。

1. X9年5月24日時点における売掛金明細表・買掛金明細表の一部推定

(1) 売掛金明細表

① 5/24時点における売掛金残高

5/24時点における売掛金勘定の借方合計 3,170,000 - 5/24時点における売掛金勘定の貸方合計 2,100,000  
= 1,070,000

② 5/24時点の大阪商店に対する売掛金

1,070,000 - 京都商店に対する分 300,000 - 神戸商店に対する分 450,000 = 320,000

(2) 買掛金明細表

① 5/24時点における買掛金残高

5/24時点における買掛金勘定の貸方合計 2,600,000 - 5/24時点における買掛金勘定の借方合計 1,950,000  
= 650,000

② 5/24時点の茨城商店に対する買掛金

650,000 - 千葉商店に対する分 200,000 - 埼玉商店 180,000 = 270,000

2. X9年5月25日から31日までの取引に基づく仕訳

(1) 5月25日

① 手付金充当による仕入

(借) 仕	入	60,000	(貸) 前	払	金	60,000
-------	---	--------	-------	---	---	--------

② 当座仕入

(借) 仕	入	50,000	(貸) 当	座	預	金	50,000
-------	---	--------	-------	---	---	---	--------

③ 給料支払い

(借) 給	料	420,000	(貸) 所	得	税	預	り	金	25,000
									22,000
									373,000

(2) 5月26日

① 手形仕入

(借) 仕	入	160,000 (*1)	(貸) 支	払	手	形	160,000
-------	---	--------------	-------	---	---	---	---------

\*1 茨城商店から仕入分 100,000 + 埼玉商店から仕入分 60,000 = 160,000

② 掛仕入

(借) 仕	入	495,000	(貸) 買	掛	金	(	千	葉	)	180,000
										165,000
										150,000

③ 手形による貸付け

(借) 手	形	貸	(貸) 当	座	預	金	294,000 (*3)
							6,000 (*2)

\*2 貸付額 300,000 × 2% = 6,000

\*3 300,000 - 6,000 = 294,000

(3) 5月27日

① 掛売上

(借) 売掛金(大阪)	146,000	(貸) 売上	326,000
売掛金(神戸)	180,000		

② 掛返品(仕入返品)

(借) 買掛金(茨城)	12,000	(貸) 仕入	13,500
買掛金(埼玉)	1,500		

③ 電子記録債権の発生

(借) 電子記録債権	190,000	(貸) 売掛金(大阪)	190,000
------------	---------	-------------	---------

④ 備品(商品の陳列棚)の購入

(借) 備品	240,000	(貸) 現金	240,000
--------	---------	--------	---------

⑤ 本月分家賃支払い

(借) 支払家賃	112,500	(貸) 当座預金	112,500
----------	---------	----------	---------

(4) 5月28日

① 手形売上

(借) 受取手形	170,000 (*4)	(貸) 売上	170,000
----------	--------------	--------	---------

\*4 大阪商店への売上分 80,000+京都商店への売上分 90,000=170,000

② 掛売上

(借) 売掛金(京都)	135,000	(貸) 売上	135,000
-------------	---------	--------	---------

③ 手形代金の決済

(借) 支払手形	150,000	(貸) 当座預金	150,000
----------	---------	----------	---------

④ 掛代金支払い

(借) 買掛金(千葉)	137,000	(貸) 当座預金	457,000
買掛金(茨城)	200,000		
買掛金(埼玉)	120,000		

(5) 5月29日

① 掛代金回収

(借) 現金	580,000	(貸) 売掛金(京都)	195,000
		売掛金(大阪)	160,000
		売掛金(神戸)	225,000

② 掛代金支払いとして約束手形の振出し

(借) 買掛金(茨城)	130,000	(貸) 支払手形	130,000
-------------	---------	----------	---------

③ 掛返品(売上返品)

(借) 売上	12,000	(貸) 売掛金(京都)	5,000
		売掛金(大阪)	3,000
		売掛金(神戸)	4,000

(6) 5月30日

① 電子記録債務の発生

(借) 買掛金(埼玉)	120,000	(貸) 電子記録債務	120,000
-------------	---------	------------	---------

② 本月分水道光熱費支払い

(借) 水道光熱費	26,000	(貸) 当座預金	26,000
-----------	--------	----------	--------

(7) 5月31日

① 当座預金預入れ

(借) 当座預金	225,000 (*5)	(貸) 現金	225,000
----------	--------------	--------	---------

\*5 上記(5)①における、神戸商店から受け取った小切手

② 約束手形の回収

(借) 当座預金	200,000	(貸) 受取手形	200,000
----------	---------	----------	---------

③ 手付金の支払い

(借) 前払金	40,000	(貸) 現金	40,000
---------	--------	--------	--------

④ 定期預金の更新

(借) 定期預金	502,500	(貸) 定期預金	500,000
		受取利息	2,500

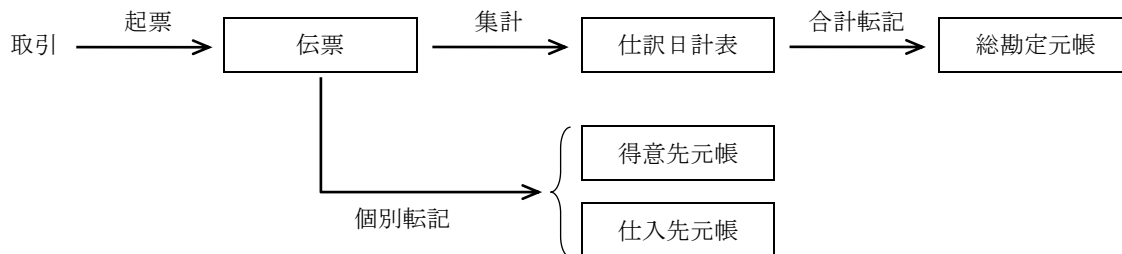
⑤ 借入金の返済および利息の支払い

(借) 借入金	900,000	(貸) 当座預金	936,000
支払利息	36,000		

第4問 伝票の集計・管理 (単位：円) 目標時間：10分

伝票制を採用している場合、通常、1日分の仕訳を勘定ごとに分類して集計し、その合計額を各勘定口座に転記する(1日分の仕訳をまとめて転記するので、これを**合計転記**という)。このとき、1日分の仕訳を勘定ごとに分類・集計するために**仕訳日計表**が作成される。

得意先元帳(売掛金元帳)や仕入先元帳(買掛金元帳)といった補助元帳へは、取引ごとの詳細な記録が必要となるため、伝票に記入する都度転記(**個別転記**)することとなる。なお、総勘定元帳に転記する際の摘要欄には「仕訳日計表」、補助元帳に転記する際の摘要欄には各伝票の名称が記入される点にも留意すること。



各伝票に記入された仕訳は次のとおりである(参考までに、売掛金、買掛金については相手先の名称を付している)。

(1) 入金伝票

① No.101

(借) 現	金	30,000	(貸) 売掛金(博多)	30,000
-------	---	--------	-------------	--------

② No.102

(借) 現	金	26,000	(貸) 売掛金(宮崎)	26,000
-------	---	--------	-------------	--------

③ No.103

(借) 現	金	400,000	(貸) 建物	400,000
-------	---	---------	--------	---------

④ No.104

(借) 現	金	12,000	(貸) 受取利息	12,000
-------	---	--------	----------	--------

(2) 出金伝票

① No.201

(借) 買掛金(岡山)	14,000	(貸) 現金	14,000
-------------	--------	--------	--------

② No.202

(借) 買掛金(広島)	27,000	(貸) 現金	27,000
-------------	--------	--------	--------

③ No.203

(借) 支払家賃	40,000	(貸) 現金	40,000
----------	--------	--------	--------

④ No.204

(借) 消耗品費	7,000	(貸) 現金	7,000
----------	-------	--------	-------

(3) 振替伝票

① No.301

(借) 支払手形	50,000	(貸) 当座預金	50,000
----------	--------	----------	--------

② No.302

(借) 仕入	46,000	(貸) 買掛金(岡山)	46,000
--------	--------	-------------	--------

③ No.303

(借) 仕入	60,000	(貸) 買掛金(広島)	60,000
--------	--------	-------------	--------

④ No.304

(借) 固定資産売却損	100,000	(貸) 建物	100,000
-------------	---------	--------	---------

(参考) 入金伝票No.103 と振替伝票No.304 について

入金伝票No.103および振替伝票No.304に記入されている仕訳を合算すると次のようになる。これは、建物を売却したことによる仕訳を書き分けたものと推測することができる。

(借) 現	金	400,000	(貸) 建	物	500,000
	固定資産売却損	100,000			



第5問 貸借対照表および損益計算書（単位：円） 目標時間：30分

貸借対照表および損益計算書は、企業内部で用いる会計帳簿とは違い、外部の利害関係者へ報告するために作成される。したがって、その表示については次のような点に留意する必要がある。なお、会計帳簿上の記録に用いている「勘定科目」に対し、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表の表示に用いられる科目は「表示科目」といわれている。

(1) 貸借対照表

- ① 現金勘定（資産）および当座預金勘定（資産）など預金の勘定は、まとめて「現金及び預金」として表示する。ただし、日商簿記3級では「現金」と「当座預金」などを分けて解答させることが多い。
- ② 繰越商品勘定（資産）の残高は「商品」として表示する。
- ③ 「貸倒引当金」は、対象となった債権から控除する形式で表示する。
- ④ 「減価償却累計額」は、対象となっている固定資産から控除する形式で表示する。
- ⑤ 経過勘定項目は、「未収収益」や「未払費用」、「前払費用」、「前受収益」として表示する。ただし、日商簿記3級では未収家賃や未払利息、前払保険料、前受家賃などの具体的な科目名を用いることもある。

(2) 損益計算書

- ① 売上勘定（収益）の残高は「売上高」として表示する。
- ② 仕入勘定または売上原価勘定（費用）の残高は「売上原価」として表示する。

決算整理として行う処理は、次のとおりである。

1. 未処理事項等

(1) 現金過不足

(借) 通 信 費	16,000	(貸) 現 金 過 不 足	9,400
		雑 益	6,600 (*1)

\*1 貸借差額

(2) 利益剰余金の配当など

(借) 繰 越 利 益 剰 余 金	220,000	(貸) 仮 払 金	200,000
		利 益 準 備 金	20,000

2. 決算整理事項

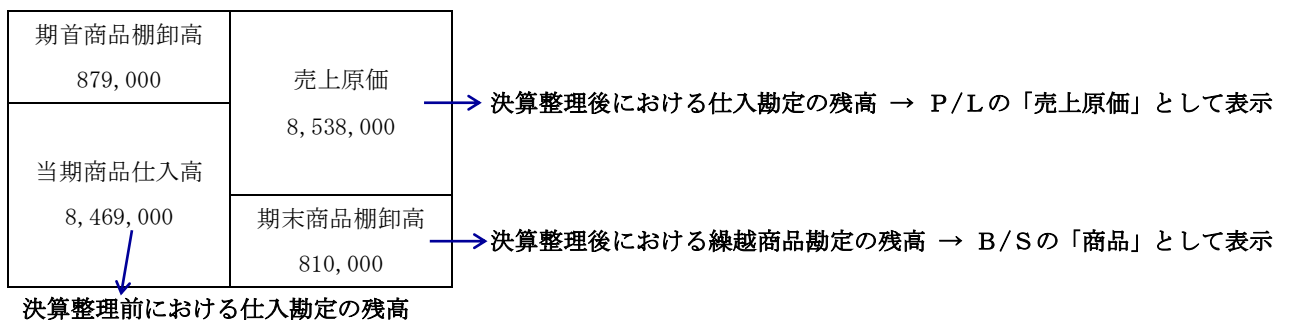
(1) 売上原価の算定

(借) 仕 入	879,000 (*2)	(貸) 繰 越 商 品	879,000
(借) 繰 越 商 品	810,000 (*3)	(貸) 仕 入	810,000

\*2 期首商品棚卸高。決算整理前の繰越商品勘定より。

\*3 期末商品棚卸高

ボックス図によって商品に関する金額の動きを整理すると次のようになる。



(2) 貸倒引当金の設定

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	11,700 (*4)	(貸) 貸 倒 引 当 金	11,700
-------------------	-------------	---------------	--------

\*4 設定額：(受取手形 1,066,800 + 電子記録債権 980,000 + 売掛金 713,200) × 2% = 55,200

繰入額：55,200 - 決算整理前の貸倒引当金 43,500 = 11,700

(3) 固定資産の減価償却

(借) 減 価 償 却 費	675,000 (*5)	(貸) 減 価 償 却 累 計 額	675,000
---------------	--------------	-------------------	---------

\*5 建物：取得原価 7,500,000 (建物勘定より)  $\times 0.9 \div 30$  年 = 225,000  
備品：取得原価 2,700,000 (備品勘定より)  $\div 6$  年 = 450,000  
225,000 + 450,000 = 675,000

(4) 貯蔵品の計上

(借) 貯 蔵 品	80,400	(貸) 通 信 費	50,400 (*6)
		租 税 公 課	30,000

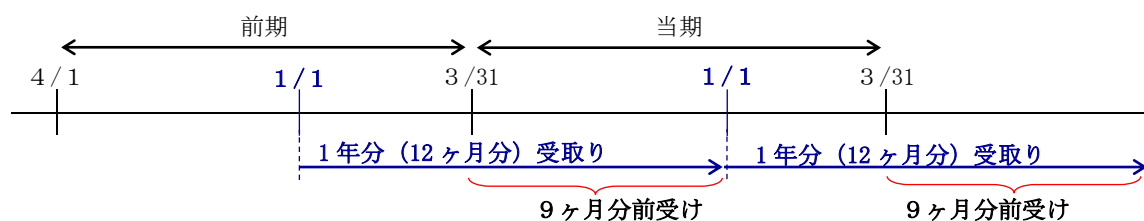
\*6 切手@84 $\times$ 600枚=50,400

(5) 受取家賃の前受分

(借) 受 取 家 賃	270,000 (*7)	(貸) 前 受 収 益	270,000
-------------	--------------	-------------	---------

\*7 受取家賃 630,000 $\times$ 9ヶ月 $\div$ 21ヶ月=270,000

毎年同額を1月1日に1年分(12ヶ月分)受け取っているため、前期末においても9ヶ月分の前受けとなっていたことが推定できる。したがって、決算整理前における受取家賃勘定残高は21ヶ月分(=期首再振替による9ヶ月分+期中受取りによる12ヶ月分)となっている。



(6) 支払保険料の前払分

(借) 前 払 費 用	193,500 (*8)	(貸) 支 払 保 険 料	193,500
-------------	--------------	---------------	---------

\*8 支払保険料 387,000 $\times$ 6ヶ月 $\div$ 12ヶ月=193,500

上記(5)の受取家賃と異なり、決算整理前における支払保険料勘定の残高が1年分として支払ったものである旨が問題文から読み取ることができる。

(7) 支払利息の未払分

(借) 支 払 利 息	36,000 (*9)	(貸) 未 払 費 用	36,000
-------------	-------------	-------------	--------

\*9 借入金 3,600,000 $\times$ 4% $\times$ 3ヶ月 $\div$ 12ヶ月=36,000

(8) 消費税に関する決算整理

(借) 仮 受 消 費 税	1,900,000	(貸) 仮 払 消 費 税	720,000
		未 払 消 費 税	1,180,000 (*10)

\*10 仮受消費税 1,900,000 - 仮払消費税 720,000 = 1,180,000

(9) 法人税等に関する決算整理

(借) 法 人 税 等	600,000	(貸) 仮 払 法 人 税 等	360,000
		未 払 法 人 税 等	240,000 (*11)

\*11 法人税等 600,000 - 仮払法人税等 360,000 = 240,000

3. 繰越利益剰余金について

貸借対照表上の「繰越利益剰余金」は、決算整理(未処理事項含む)のみならず、決算振替を通じて振り替えられる当期純利益を加算した金額となっている。

決算整理前の繰越利益剰余金 807,500 - 配当など 220,000 + 当期純利益 845,800 = 1,433,300

以 上